

ヨーク郡警察は‘IT’S NOT JUST A GAME’活動を開始する。

クリスマスが近づいて、父母や祖父母ないしは親類中が、プレゼント先リストに載せた少年少女のために、最新の玩具やゲームを探している。ヨーク郡警察はこのたび、歳末にビデオゲームを買おうとしている人々に対する新しい教育プログラムを発表した。

‘IT’S NOT JUST A GAME’活動は、少年少女、父母、親類ないしは保護者に対して、ビデオゲームに関する考え方を教育するものである。この活動では、不適当な年齢でバイオレント(暴力)ビデオゲームに接することがいかに危険であるかについて解説し、年齢に応じて適否がはっきりするレーティングを使うことを明示している。

この活動ではまた、扱っている題材に接するには幼なすぎる子供たちにゲームがもたらしうる悪影響と、実際に遊ばないとしても、年上の子供が遊ぶのを見ることによる危険についても詳細に解説する。

It’s Not Just a Game 活動は、ヨーク郡警察のVIP (Values, Influences and Peers)活動の中核をなすものである。この活動は郡全域の6~8学齢を対象にヨーク郡警察が進めているもので、子供たちが選択を、価値や法規に関わる知識を持って行えるようにするものである。また、要請があれば係官は、地域社会の集まりに活動状況を解説に出向く。

It’s Not a Game program では教育用に、ビデオと、子供たちが家に持ち帰って家族と話し合いが出来るように作られたパンフレットが用意

されている。この内容は、郡警察のウェブサイト www.yrp.ca から入手することが出来る。以下は、プログラムに含まれている幾つかの実態である。

- 平均的な子供は、グレード 8 終了までに 8,000 件の映像化された殺人、ならびに 100,000 件の暴力場面を見ている。
- 調査によれば、バイオレント(暴力)ビデオゲームで遊ぶと、その人の攻撃的な考え方や感情が促進される。
- 専門家によると、テレビ番組や映画に比べゲームの場合、遊んでいる人が暴力を振るう立場に立つことになるので、悪影響はより強い。

It’s Not Just a Game 活動は、保護者が、子供たちが前向きな選択のための助けになるための方法を提供している。

以下はプログラムに含まれている例の一部である。

- ビデオゲームのレーティングに関して知るようにしよう。
- 子供が遊ぶ前に、父母が内容を調べよう。
- ゲームの悪影響とその悪いイメージについて子供たちと話すようにしよう。
- ゲームをする時間を制限しよう。

郡警察の Armand La Barge 署長は、「このクリスマスに子供たちにゲームを買ってやろうとしているすべての親たち、祖父母たち、そして保護者の皆さんが、It’s Not Just a Game 活動を通じて、子供たちを含めて問題を理解し、レーティングをチェックして欲しい。今、健全で隠し事のない生活を選ぶことが、将来の健全な若者を作ることになる。」と述べている。

更に詳しい情報は、地域サービス局の Paul Pedersen 副署長(電話 1-866-876-5423, ext. 6711)と連絡を取るか、郡警察のウェブサイト

www.yrp.caを参照されたい。

JSS 説明

最近のビデオないしはコンピューターゲームの普及は猛烈なものであり、特に子供たちがゲームから受ける影響は、相当なもののはずだ。記事の中では極端な場面が子供たちの目に触れる回数のみが書かれており、その影響については詳細な説明はないが、繰り返し見ている、本物と見分けがつかないバーチャルな画像が、人々の精神に影響なしとは考えられない。

最近耳にすることが多い残虐な事件の原因の一部は、そういったところにもあるかもしれない。また、参考までに添付した記事が代表するような若年者の犯罪を知るにつけても、バーチャル世界の影響は否定できないように思われる。

日本ではCERO(Computer Entertainment Rating Organization)が行っているビデオゲームソフトのレーティングは、北米ではESRB(Entertainment Software Rating Board)が行っている。ESRB のレーティングでは、

e-E; ; Early Childhood (幼児)

E ; 万人向け

10-E : 10 才+

T ; 13 才+

M ; 17 才+

A-o ; 18 才+

RP ; ペンディング

となっている。

購入する場合はもとより、自宅内にあるソフトウェアを、このレーティングにしたがって整理する必要もありそうだ。